生活と政治をつなぐ情報紙

生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.260

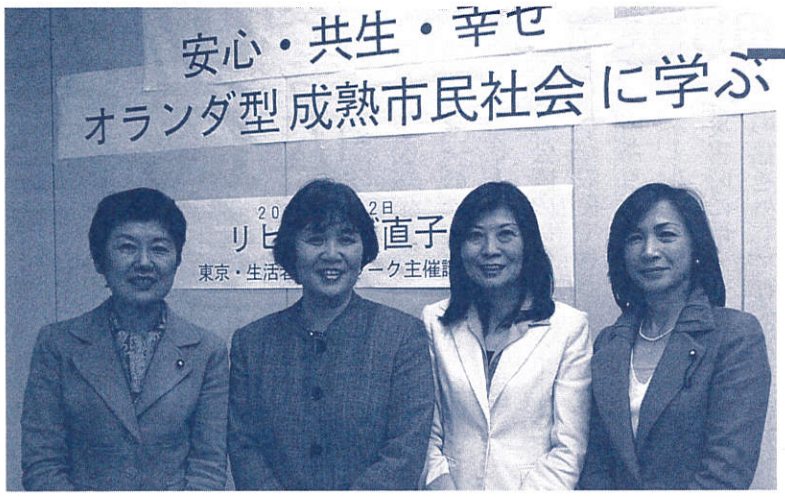
2013.5.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行　東京・生活者ネットワーク
■〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189　FAX03-3200-9274
■Eメール　tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ　http://www.seikatsusha.net
■発行責任者　西崎光子
■定価　年間1000円・1部100円
■郵便振替口座　00130-3-18417

いじめ、体罰を発端とする子どもの自殺が相次ぎ、成人した人たちの中にも引きこもり、うつ、若年者の自殺が後を絶たない。戦後67年、3.11から2年。あらゆる矛盾や問題を抱えている社会を、結果的に見て見ぬふりをしてきた私たち大人は、今いったいどうすれば子どもたちに幸せな社会を手渡してやることができるのだろうか。子どもの幸せ度世界一、市民社会のフロントランナー・オランダの経験と具体例から学ぶリヒテルズ直子さんの講演会から報告する。

東京・生活者ネットワーク都議会議員
〔国分寺市・国立市〕●山内（やまうち）れい子



リヒテルズ直子さん（左から二人目）を囲む、右から都議の山内れい子、大田区議の奈須りえ、都議の西崎光子。4月12日

「オランダ型成熟・市民社会」から学ぶ

祖国よ、安心と幸せの国となれ――リヒテルズ直子講演会から

講演の冒頭でリヒテルズさんは原発問題にふれ、福島原発事故は起こるべくして起こった戦後日本社会の帰結するところであったのではと前置きした。

史上初の原爆投下を経験しながら54基の原発をつくった日本。一方、ソ連や東欧諸国と陸続きにあるヨーロッパでは、核戦争勃発の危機や原子力が人類にもたらす危険は、身近で現実味を帯びたテーマであった。1972年、オランダ政府が発表した原子力推進政策は、戦後最大規模といわれる反原発運動によって阻まれ、34基の原発建設計画は白紙撤回された。60～70年代は、学生や知識人を中心に、かつてナチスドイツの台頭を許した全体主義への批判が高まり「政治の行方を決めるのは自分たちだ」と、市民自らが行動を起していった時代であった。

82年には、長引く不況・オランダ病を克服するために、政府、労働者、企業の3者が対等に話し合い短時間労働の正規就業化を実現。「同一価値労働・同一賃金待遇」などの政策（ワークシェアリング）を合意し、財政破綻を回避。パートとフルタイムの間に差別を設けないばかりか生活に合わせて働き方を選択できる制度転換は、市民の社会貢献を促し、自分は、参加し発言する市民だという意識変革をも生み出した。

幸福感と社会的能力が高く学力も高いオランダの子ども

この間、日本が「産業社会刑務所」の学校制度をひた走ってきた一方で、オランダでは「脱産業型社会」をめざす教育が目標とされた。

2007年、ユニセフが公表した生活と福祉の総合的評価調査でオランダは、「子どもが世界一幸せな国」とされ、「生活に満足（1位）」「親に何でも相談する（1位）」など調査で使用した6つの側面のすべてにおいて10位以内を占めた。また、PISA学力調査でもEU域内で2位の成績であるという。学校では06年、初等中等教育に「民主的シチズンシップ教育」が義務化。「自由のもとに自分で考え、社会は公正かなどを批判的に思考し社会正義を守る存在＝市民」へと成長するための議論の場が提供される。

そもそもオランダの教育には、「理念・方法・学校設立の自由」が保障されている。子ども同士の主体的な学び保障を第一義に、一人一人の進度にあった教材や興味に則したテキストが提供される。96年から開始した特別支援教育はインクルーシブ教育として定着しており、03年には個別補助金制度（リュックサック政策）を導入。国が子どもの障がいの種別・程度を判定→補助金を決定→親子が選んだ学校に予算をつけ→介助員や子どもの学びに適した環境整備が行われる。

検定教科書を学ぶ日本の学校教育では、個性の尊重を何べん叫んでも違いは豊かさであることを実感するのは困難だ。世界は互いに依存しあっている。人は生まれながらにして「世界市民」であることを実感し、違いを認め合い、自分は世界全体のために何をしていくかを学校教育から学びとるオランダ。

背景には、政治を動かす「オランダ型成熟・市民社会」の力があった。民主的市民社会の構築と日本の教育改革が急がれる。

都　「都内公立校における体罰の実態把握について」最終報告（都教育庁）、「東京都観光産業振興プラン―世界の観光ブランド都市・東京をめざして」最終まとめ。

ネット　●昭島　星ひろ子と都政を変える市民の集い　5月11日（土）18：00～　昭島市市民交流センター3階会議室（JR中神駅・東中神駅）　主催：星ひろ子を育てる会
●国分寺・国立　山内れい子いけいけ集会　5月15日（水）18：30～　国分寺Lホール（国分寺駅ビル8階）　防災って男のしごと？　講師：浅野幸子さん（早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員）　リレートーク
●世田谷　未来につながれ市民集会　5月31日（金）18：30～　北沢タウンホール（小田急線・京王井の頭線下北沢駅）　報告：都議会議員西崎光子
●杉並　集会　キラリ・小松久子を都政に送ろう　5月31日（金）19：00～　杉並公会堂ぐらんさろん（JR荻窪駅北口）　ゲスト：樋口恵子さん（評論家）ほか
●武蔵野　正しく知ろうPM2.5～きれいな空気を取り戻すために私たちにできること　6月29日（土）14：00～　かたらいの道市民スペース（三鷹駅北口）　講師：沼田通孝さん（大気汚染測定運動東京連絡会事務局長）

あんてな

オーガニックカフェ ふくしまオルガン堂下北沢　オープン！

東日本大震災・原発事故から2年。この3月15日、福島県内の有機農業者らが発起し、東京下北沢にカフェを開いた。県産の農産物（有機・減農薬）、特産品の販売と食の提供のほか交流・体験の窓口として、さらに、東京に避難している被災地の人たちの集いの広場としていきたい……と実現にこぎつけたもの。生産者・支援者・関係者などたくさんの人の思いの詰まった店名は、「コミュニティ＆オーガニックカフェ　ふくしまオルガン堂　下北沢」。「オルガン」には、オーガニック（＝Organic）と、対話・交流のハーモニーを奏でるという二つの意味が込められているという。

開店を祝うこの日、セレモニーでふるまわれた福島の食材の質実さ、美味しさに、改めて日本の食糧基地・福島を実感する。福島の美味しい食材をもっと美味しく、安心して食してもらえるよう旬の野菜や果物、米、加工品などカフェで提供する食材や販売品は、すべて放射能測定を実施し、結果を表示する。

カフェを企画・運営する特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク理事長の菅野正寿（すげの・せいじ）さんは、「小さなお店ですが、みなさんの思いと心の集う希望の広場として、大きく育てていきたい」と抱負を語った（3面に関連記事）。

所在地：世田谷区代沢4-44-2　☎03-3411-7205
http://www.farm-n.jp/yuuki/organ/

取材：編集部　加藤千鶴子

▲理事長の菅野さんを囲んでオープニングを祝うスタッフら。小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口から徒歩12分。住宅街に差し掛かった辺り、福島の風が吹き抜けるようなホッとするカフェ

◎みなさまのカンパを募集しています。郵便振替口座番号00130-3-18417　加入者名　「東京・生活者ネットワーク」